

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光フランス語			13837	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	2	私立・県立高等学校教員（フランス語）			

授業の到達目標

〈観光客としてフランスを旅行する〉またく日本を訪れたフランス語話者とコミュニケーションをとる〉ために最低限必要な知識と会話を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

フランス（首都、地方）、衣食住を含むフランス人の日常生活、社会の動向、文化などフランス諸事情全般について、関連項目の映像資料を参考にしながらテキストを講読する。またフランスの国、地方、歴史、観光地、食文化、スポーツ等、学生の積極的な発表を軸に授業を進める。

授業計画

- 1 Orientation, "La France"
- 2 "La France" "Pairs"
- 3 "Paris"
- 4 "Les cafés"
- 5 "La vie des étudiants"
- 6 "Le pain, le vin et le fromage"
- 7 "La Bretagne"
- 8 "La Bretagne"
- 9 "La Provence"
- 10 "La Provence"
- 11 "L'Alsace"
- 12 "L'Alsace", 映画鑑賞(フランス語)
- 13 "Trois grands personnages de l'histoire française"
- 14 "Le français dans le monde"
- 15 まとめと試験

授業の方法

多彩なテーマについて書かれた関連資料の講読と学生の発表（テーマについて観察、調査、考察をしたもの）による。

準備学修

web参照のこと

課題・評価方法、その他

出席点10%、平常点20%、研究発表30%、学期末試験40%

欠席について

授業出席は必要不可欠、やむを得ない場合、授業で進んだところまでの内容について自らの補習が必要である。

テキスト

Amicalement plus（2023 刷発行 駿河台出版社）
テキスト講読に関しては予め単語帳及び解説プリントを準備する。

参考図書

必要があれば授業で紹介する。その他、観光案内資料や学生の興味の対象となる資料記事を配信する予定。

オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童英語教育概論			13701	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語活動・外国語科の学習指導の知識、第2言語習得の基礎的な知識、授業に必要な英語コミュニケーション能力、教材や評価の基礎知識を、小・中・高等学校の連携も視野に入れて身に付ける。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法、小学校の外国語教育に必要な基礎的な知識を、以下の「授業計画」の具体的な項目に従って身に付ける。毎回「10分間 Classroom English」を行う。

授業計画

- 1 小学校英語教育の目的(1)小学校学習指導要領の理解
- 2 小学校英語教育の目的(2)世界の言語政策事情
- 3 小学校英語教育の目的(3)異文化理解
- 4 小学校英語教育の目的(4)児童文学
- 5 第2言語習得研究(1)年齢と言語習得
- 6 第2言語習得研究(2)学習と環境
- 7 第2言語習得研究(3)学習者要因、指導者要因
- 8 第2言語習得研究(4)児童期の第2言語習得における語彙習得
- 9 第2言語習得研究(5)児童期の第2言語習得における文法習得
- 10 第2言語習得研究(6)児童期の第2言語習得における音声習得
- 11 技能の育成(1)リスニング
- 12 技能の育成(2)スピーキング
- 13 技能の育成(3)リーディング
- 14 技能の育成(4)ライティング
- 15 まとめ、小学校英語指導に求められる資質と能力

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション50%、レポート20%

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

テキストは授業内で購入すること。
適宜プリントを配布する。

参考図書

【参考文献】
『小学校英語はじめる教科書 改訂版』吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著） mpi松香フォニックス 2021
『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ I	ET		13725	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語教育における背景知識や教材、多様な指導技術、評価などを、小学校の役割及び中・高等学校の外国語教育との連携を視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領における「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業の在り方を踏まえた知識と技術を以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。

授業計画

- 1 小学校外国語教育の目標・内容(1)年間指導計画と小中高連携
- 2 小学校外国語教育の目標・内容(2)教材研究と学習指導案作成法
- 3 小学校外国語教育の目標・内容(3)ICTの効果的な活用法
- 4 コミュニケーション能力を育成する指導法 ティームティーチング
- 5 コミュニケーション能力を育成する指導法 発話を促す活動
- 6 小学校英語教材研究(1)音声習得中心の活動
- 7 小学校英語指導法(ワークショップ)(1)音声習得中心の活動
- 8 小学校英語教材研究(2)文字習得中心の活動
- 9 小学校英語指導法(ワークショップ)(2)文字習得中心の活動
- 10 小学校英語教材研究(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 11 小学校英語指導法(ワークショップ)(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 12 小学校英語教材研究(4)言語使用の場面・背景(物語)に焦点を当てた活動
- 13 小学校英語指導法(ワークショップ)(4)物語の場面・背景に焦点を当てた活動
- 14 小学校英語 模擬授業
- 15 Can-Doによる英語能力の測定とパフォーマンス評価、模擬授業の振り返り

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション50%、レポート20%

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

『小学校英語はじめる教科書 改訂版』吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著） mpi松香フォニックス
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
『Let's Try! 1』『Let's Try! 2』文部科学省
その他、必要に応じて、随時紹介する。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ II	ET		13729	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
天野 史子	選択	2	児童英語講師、児童英語・小学校英語指導者養成指導、小学校英語活動支援員			

授業の到達目標

キッズ・イングリッシュ I で体験した指導法を活用し、年齢・発達過程にあった指導案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小・中学校、高校、英会話学校等での指導に役立つ授業創りを考え、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

春学期で体験した指導法とその意義を理解し、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた音声、文字、語彙・表現、文法指導についての知識と技術を活用し、指導案作成、教材教具作成、模擬授業を行う。その上で、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

- 1 児童の発達段階にあった英語活動を創る(1)「指導案作成のポイント」
- 2 児童の発達段階にあった英語活動を創る(2)「絵カード・教具・ワークシート作成法」
- 3 児童の発達段階にあった英語活動を創る(3)「指導案草案発表」
- 4 実習授業指導案作成(1)『教材研究』
- 5 実習授業指導案作成(2)『教具作成』
- 6 実習授業指導案作成(3)『評価の観点と振り返りカード作成』
- 7 実習授業指導案発表と模擬授業
- 8 第1回 小学校英語活動 実習授業
- 9 実習リフレクション
- 10 実習授業指導案作成(4)『教材研究・指導案発表』
- 11 実習授業指導案作成(5)『教具作成』
- 12 実習授業指導案作成(6)『評価の観点と振り返りカード作成』
- 13 実習授業指導案発表と模擬授業
- 14 第2回 小学校英語活動 実習体験
- 15 まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成
- 16

授業の方法

指導案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の指導・支援を実際に現場で体験する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、レポート30%

欠席について

参加・発表型授業であり、小学校英語活動実習を行うので必ず出席すること

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、教材配布

参考図書

『小学校英語教育の進め方』岡秀夫、金森強 成美堂
『小学校英語の教育法 理論と実践』アレン玉井光江 大修館書店
『小学校英語 はじめる教科書』小川隆夫・東仁美 mpi

留意事項

子どもに英語を教える授業を、自らが積極的に創る。
実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもと環境			17454	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解し、幼児期の思考・科学的概念の発達や幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりや発達について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）の育成を目指す。

授業の概要

領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身に付ける。特に領域「環境」の指導の基盤となる、現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児の身近な環境との関わりや発達等について学ぶ。

授業計画

- 1 保育と環境
- 2 領域「環境」のとらえ方と考え方
- 3 保育環境の構成
- 4 人的環境(友だちや保育者とともに育つ)
- 5 物的環境(豊かな生活を育む環境をデザインする)
- 6 自然環境(生き物や植物、自然の事象に関心をもつ)
- 7 社会的環境(自分と取り巻く社会の文化にふれる)・子どもを守る安全な環境
- 8 まとめ

授業の方法

保育実践の事例等を取り入れ、具体的にわかりやすい講義を行う。グループ討議等を行い、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

Webで参照とすること。

課題・評価方法、その他

平常点50% 定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

新時代の保育双書 保育内容環境 第3版 みらい
幼稚園教育要領解説

参考図書

授業内で紹介する

留意事項

毎回の出席と主体的な取り組みを心掛けること。
日頃から環境について考えておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等英語科指導法			17467	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。			

授業の到達目標

小学校外国語教育における背景知識や教材、多様な指導技術、評価などを、小学校の役割及び中・高等学校の外国語教育との連携を視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領における「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業の在り方を踏まえた知識と技術を以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。

授業計画

- 1 小学校外国語教育の目標・内容(1)年間指導計画と小中高連携
- 2 小学校外国語教育の目標・内容(2)教材研究と学習指導案作成法
- 3 小学校外国語教育の目標・内容(3)ICTの効果的な活用法
- 4 コミュニケーション能力を育成する指導法 ティームティーチング
- 5 コミュニケーション能力を育成する指導法 発話を促す活動
- 6 小学校英語教材研究(1)音声習得中心の活動
- 7 小学校英語指導法(ワークショップ)(1)音声習得中心の活動
- 8 小学校英語教材研究(2)文字習得中心の活動
- 9 小学校英語指導法(ワークショップ)(2)文字習得中心の活動
- 10 小学校英語教材研究(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 11 小学校英語指導法(ワークショップ)(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 12 小学校英語教材研究(4)言語使用の場面・背景(物語)に焦点を当てた活動
- 13 小学校英語指導法(ワークショップ)(4)物語の場面・背景に焦点を当てた活動
- 14 小学校英語 模擬授業
- 15 Can・Doによる英語能力の測定とパフォーマンス評価、模擬授業の振り返り

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照とすること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション50%、レポート20%

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

テキスト 『小学校英語はじめる教科書 改訂版』吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著） mpi松香フォニックス
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
『Let's Try! 1』『Let's Try! 2』文部科学省
その他、必要に応じて、随時紹介する。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもと表現（造形）		17510	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
森 晴美	選択	1	公立幼稚園教員、私立保育所保育士		

授業の到達目標

(1) 乳幼児の表現の発達過程を理解できるように、表出から表現に至る乳幼児の心身の発達を説明できることや、表現を豊かにする題材、事物との出会いの重要性を説明できるようになること、
(2) 保育における身体・音楽・造形等の多様な表現に関する知識・技能を身に付けるように、イメージを豊かに育み、情緒を安定させ自分らしい表現ができることや、多様な表現を組み合わせたり、鑑賞したりして豊かな感性を育むことの説明ができるようになることを目指す。また協同活動により豊かな表現につなげていくことの大切さがわかることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

豊かな感性や表現する力を養う領域「表現」の指導の基盤となる、幼児期の表現やその発達、創造性や感性を育む環境構成等の知識・技能・表現力を身に付ける。

授業計画

- 1 領域「表現」のねらいと内容、造形表現の理解
- 2 乳幼児の表出から表現へかく・つくるに着目した発達の特徴と過程
- 3 身近な自然を体感し、身体の諸感覚を通して表現する
- 4 素材の特性を知り、発達に即して具体的な表現にいかす
- 5 イメージを豊かにする題材、事物との出会いと環境構成
- 6 鑑賞活動と豊かな感性（情報機器及び教材の活用を含む）
- 7 仲間と創る総合的な表現活動の楽しさ—絵本や物語をいかしたパフォーマンス・アーツへ—
- 8 乳幼児の素朴な表現の分析・評価、定期試験
- 9

授業の方法

講義に加え、実技や鑑賞活動を取り入れる。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

①課題レポートや作品の提出を求め、授業内にフィードバックを行う。
②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点の減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』、厚生労働省『保育所保育指針解説 平成30年3月』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』株式会社フレーベル館

参考図書

樋口一成『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』2018年（株）萌文書林、その他適宜配布する

留意事項

日頃から作ったり描いたりすることを生活に取り入れ、様々な自然・人工素材に親しんだりしておく

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等英語		17511	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shineの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。		

授業の到達目標

小学校外国語活動・外国語科の学習指導の知識、第2言語習得の基礎的な知識、授業に必要な英語コミュニケーション能力、教材や評価の基礎知識を、小・中・高等学校の連携も視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法、小学校の外国語教育に必要な基礎的な知識を、以下の「授業計画」の具体的な項目に従って身に付ける。毎回「10分間 Classroom English」を行う。

授業計画

- 1 小学校英語教育の目的(1)小学校学習指導要領の理解
- 2 小学校英語教育の目的(2)世界の言語政策事情
- 3 小学校英語教育の目的(3)異文化理解
- 4 小学校英語教育の目的(4)児童文学
- 5 第2言語習得研究(1)年齢と言語習得
- 6 第2言語習得研究(2)学習と環境
- 7 第2言語習得研究(3)学習者要因、指導者要因
- 8 第2言語習得研究(4)児童期の第2言語習得における語彙習得
- 9 第2言語習得研究(5)児童期の第2言語習得における文法習得
- 10 第2言語習得研究(6)児童期の第2言語習得における音声習得
- 11 技能の育成(1)リスニング
- 12 技能の育成(2)スピーキング
- 13 技能の育成(3)リーディング
- 14 技能の育成(4)ライティング
- 15 まとめ、小学校英語指導に求められる資質と能力

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション50%、レポート20%

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

テキストは授業内で購入すること。
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校英語はじめる教科書 改訂版』吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著）mpi松香フォニックス 2021
『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
その他、必要に応じて、随時紹介する。